

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に際しまして、御理解と御協力をいただきありがとうございます。先日、札幌市における令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校児童（対象・6 年生）につきましても、教科に関する調査の結果概要及び改善の方向と、生活習慣や学習環境に関する調査による傾向をまとめましたので、お知らせいたします。今後、課題や改善の方向を基に、御家庭と連携を図りながら指導を充実させてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

◆全国の平均正答率と比較して、±3 ポイント以内の差である場合は「●ほぼ同程度」「◇やや上回っている、◆やや下回っている」、3.1 ポイント以上の差がある場合は「△上回っている」「▼下回っている」としています。

	本校の概要	課題	改善の方向
国 語	【内容】 △〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で、全国平均を上回っている。 しかし、「書くこと」において、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、全国平均同様本校の正答率が低くなっている。	●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	○引用する目的を明確にし、必要な部分を抜き出して正確に書いたり、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書いたりできる場を設ける。
	◇〔知識及び技能〕の「情報の使い方に関する事項」は、全国平均をやや上回っている。	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	○文章を理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句とを線でつないだりするなど、目的に応じて、図示しながら情報を整理する学習活動の充実を図る。
	◆〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」は、全国平均をやや下回っている。		

算 数	◇「数と計算」、「測定」、「データと活用」は、全国平均をやや上回っている。しかし、「データと活用」において、二次元の表から条件に合う数を読み取ることについては、全国平均同様に本校も正答率が低くなっている。 ◆「図形」は、全国平均とほぼ同程度。 ▼「変化と関係」は、全国平均を下回っている。	●二次元の表から条件に合う数を読み取ること。 ●直方体の形を構成する面について理解すること。日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を記述すること。 ●百分率で表された割合と比較量から基準量を求めること。単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、それを基に判断すること。基準量、比較量、割合の関係が正しく理解すること。	○目的に応じて、データを集めて分類整理し、問題を解決するために適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにする指導の充実を図る。 ○図形の観察や構成・分解の活動を通して、立体図形を構成する要素について考察できるようにする指導の充実を図る。立体の面積について、単位や測定の意味を理解し、体積の計算による求め方について理解できるようにする指導の充実を図る。 ○日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする指導の充実を図る。
--------	---	--	--

【児童質問紙】 学習・生活の様子

今回の調査では、71項目にわたって生活習慣、学習意欲、学習方法、学習環境等についての質問紙調査も実施されました。ここでは、回答の内容から本校児童の傾向を紹介します。国語・算数の結果と合わせて、今回の結果から、学校と家庭が一体となって子どもたちに望ましい環境づくりを行うなど、工夫して取り組んで参りたいと思います。（肯定的な回答の割合が高いものには○、低いものに●を付けています。）

○基本的な生活習慣が整っていると感じている。

○家族とも先生とも話や相談ができ、互いに助け合える環境であることを感じている。

○学校に行くことを楽しく感じている。

○ICT 活用を適切にできると感じている。

○友達との協働学習のよさを感じ、前向きに取り組もうとしている。

○人の役に立つ人間になりたいと感じている。

●SNS 視聴の時間が全国平均に比べて長い。

●学習に使う機会は少ないが全国平均よりは長い。

●休日の家での学習時間は全国平均に比べてやや短い。

●図書館利用が少なく、読書時間が短い。特に新聞を読むことは少ない。

心身共に健やかで、学校での学習に前向きに取り組もうとしている児童が多い。スクリーンタイムを減らし、活字に触れる・体験的な活動を行う機会を工夫して生み出していくことが大切である。また、進んで学習する習慣を身に付けていけるようなかわりを図っていく。